



豊中市 田中 裕気 さん

「豊中まつり実行委員会」実行委員長。2016年に当時所属していた豊中青年会議所から出向で「豊中まつり実行委員会」事務局長に就任。市民主体のまつり運営にすっかりハマり、2018年から実行委員長を務める。

豊中市 吉田 剛之 さん

特定非営利活動法人とよなかおきなわ応援団理事。豊中まつりスタッフ。2018年に沖縄市を訪れたことをきっかけにコザの魅力にはまり、沖縄市を頻繁に訪れるようになる。その後、豊中でも都市間交流に関わるようになった。



沖縄市 宮島 真一 さん

ちゃんぶる〜沖縄市大使。テレビ番組『コザの裏側』メインMCを10年間務めた。2015年、市内にカフェシアターと称した映画館「シアタードーナツ」をオープン。地域に根差した取り組みを多数行っている。

沖縄市 高安 高章 さん

沖縄市経済文化部文化芸能課長。1998年に沖縄市に入庁し、商工振興課、契約管財課、納税課などを経て、2024年度より沖縄全島エイサーまつりの担当課である文化芸能課長を務める。

【司会進行】田中逸郎(元・豊中市副市長)



海を越え、時を超えて、  
未来につながる兄弟都市の座談会

## 第2部

今を見つめ、  
夢を語ろう。

### それぞれの“出会い”

—— 皆さん、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

第1部の座談会と同様、みんな“兄弟”の間柄ですが、まずは私からお一人ずつ質問させていただきます。

最初は「豊中まつり実行委員会」実行委員長の田中裕気さん。第1部にご出席いただいた芳村さんの後任でいらっしゃいますが、これまでのいきさつを教えてください。

田中 豊中まつり先代実行委員長だった芳村さんは僕にとって豊中JC(青年会議所)の先輩でもあり、その芳村さんに誘われてまつりに関わるようになりました。いきなり沖縄にも連れて行かれ(笑)、沖縄市の皆さんに紹介していただき、沖縄JCの方々と仲良くなって、気づけば実行委員長として今ここに座っているという状況です(笑)。

—— 両市のJCの交流も30年くらいになるそうです

から、もう抜けられませんね(笑)。豊中まつりにおいては、これまでの内容を踏襲するだけでなく、常に新しいことにチャレンジなさっているとお見受けしますが、いかがですか。

田中 そういっていただけると嬉しいです。まつりを通じて、豊中市と沖縄市の交流の輪に新しい人もどんどん入ってきてほしいと思っています。そして幅広い世代の人々をつないで、隙間のない、切れ目のない、一つの大きな市民交流の輪をつくれたらいいなと考えています。

—— 素晴らしいお考えだと思います。ありがとうございます。

続いて、同じく豊中まつりからスタッフの吉田剛之さん。自他ともに認める沖縄大好き人間で、ネットワークも大変広く、まつりの市民ボランティアの枠を超えて多方面で活動し、交流しておられます。吉田さん、その経緯を教えてください。

吉田 特別なことは何もなく、多くの人たちと同じように僕も、初めて訪れた沖縄の青い海や空に感動し

たことがきっかけです。そこからさらに深みに、沖縄市の魅力にはまっていったのは、沖縄市の皆さんとお会いして、その明るさや温かさに魅了されたからです。

—— みんな同じですね。豊中まつり以外では主にどのような活動をしていらっしゃいますか。

吉田 沖縄市も地元の豊中市も大好きなので、SNSなどを活用して二つの都市の魅力や情報を発信しています。相互交流というか、両市民が互いのまちに行ってみたいと思ってもらえるように、いろんな人の力を借りてやっています。

—— ネットワークはますます広がりそうですね。ありがとうございます。

それでは次に、沖縄市文化芸能課の課長、高安高章さん。兄弟都市交流の担当課長に就任されてまだ日が浅いとのことですが、これまでの感想などをお聞かせください。

高安 半世紀にわたる歴史の重みをひしひしと感じているところです。両市の友好と信頼の絆、兄弟愛、また郷土愛、これまで培ってきたものを大切にしながら

ら次の時代、次の世代につなげていきたいと考えています。

—— ありがとうございます。市民も職員もつながるといいですね。

最後は、宮島真一さん。コミュニティシネマと僕は勝手に呼んでいますが「シアタードーナツ」の代表であり、「ちゃんぷる〜沖縄市大使」であり、タレントとして地元のテレビやラジオ、イベントなどでもご活躍です。宮島さん、その経緯をご紹介ください。

宮島 僕が生まれた1973年（昭和48年）は、コザ市最後の年です。翌年からは豊中市さんのサポートもあって沖縄市として歩んでいくわけですが、多種多様な文化や価値観が共存し融合する、まさにチャンプルーなこのまちが今の僕をつくったという気がしています。



豊中まつりフィナーレのカチャーシー

—— 多彩な経歴をお持ちだと思いますが、具体的にはどのような活動をしてこられたのですか。

宮島 たいしたことはしていませんよ。大学卒業後、仲間と音楽をやったりしていましたが、県内最大級のイベントである「沖縄全島エイサーまつり」の司会を務めたことが契機となって、その後、FMコザでパーソナリティーをしたり、RBC琉球放送の「コザの裏側」と

いう番組でMCをしたり、沖縄市観光物産振興協会のまちあるきガイドをしたり。そんな中でいろんな人たちと出会い、交流が広がっていきました。

—— そして、2015年（平成27年）に沖縄市で、手作りドーナツが食べられるカフェを併設した、「街のコミュニティシアター」と銘打つ「シアタードーナツ」をオープンするわけですね。コザがシャッター通りというか活気を失った時期もありましたが、今、再び息を吹き返し、活性化しつつあるのは、宮島さんたち若手起業家の力が大きいのではないのでしょうか。



にぎわう沖縄市商店街の様子（一番街・パークアベニューなど）

## つながり、そして広がり。

—— 兄弟都市の原点には平和への思いがあります。1964年（昭和39年）にコザ市の大山市長が、沖縄戦で亡くなった豊中市の兵士の遺族に「霊石」と「仏桑華（ハイビスカス）」を贈ってくださいました。これが両市交流のきっかけであり、翌年から豊中市はコザ市の職員を招き、互いに学び合ってきました。観光促進でもなければ産業振興でもない、まさに人と人との、いわばマブイ（魂）のつながりと、それを確かなものにするための人材交流から始まったのです。この関係を皆さんはどのように捉えていらっしゃるでしょうか。

田中 豊中まつりの関係で僕が初めて沖縄市に行ったとき、皆さんが「めんそーれ」ではなく「おかえり」と迎えてくれました。「初めてでも兄弟だから、おかえりだよ」と。もう一瞬で沖縄市が大好きになりました。都市提携と聞いて型通りの、偉い方の交流を想像していたのですが、豊中市と沖縄市の間には、培われてきた市民同士の確かな絆がありました。これからも大切にしたいと思っています。

吉田 沖縄へ行ったことがあるという豊中の人は大勢いますが、沖縄市でふらりとお店に入って何気なく会話をすると、「豊中市へ行ったことあるよ」「豊中まつりに行ったことあるさあ」という人に遭遇することが意外と多く、日常でも両市の交流を実感します。その一方、兄弟都市だということをまだ知らない両市民も大勢いらっしゃると思うので、このつながりをもっと広げていきたいですね。

高安 豊中市の方々が沖縄市に魅力を感じてくださり、この地を訪れてくださることが、私たち自身、郷土の魅力とは何なのかを改めて考えるきっかけになっています。先進の都市である豊中市との触れ合いを通じて沖縄市の文化や歴史を見つめ直し、再発見することにつながっていると私は思います。これも一つの“兄弟都市効果”といえるかもしれません。

宮島 皆さんもよくご存じの元沖縄市職員、中根勉さんからよく聞かされていました。彼が僕の映画館に来て、映画を見ずにビールだけ飲みながらいうわけです



豊中まつり実行委員が、沖縄市を訪問した時の様子

よ、「今度、豊中市のメンバーが来るんだよ」って、本当にうれしそうに。行政間の交流なのに、仕事なのに、まるで友達が遊びに来るような、まさに離れていた兄弟が帰ってくるような。なんだか、それが全てを物語っているように私には思えます（笑）。

## “兄弟”のこれから

—— 皆さん、ありがとうございます。第1部の座談会でもさまざまなご意見が出ました。沖縄市は、米軍基地の門前町という歴史も含めて、まちに独特の重みや深みを感じる。単なる観光都市ではない、まさにチャンプルーでディープな魅力にひかれる。それは物見遊山な気持ちを超えている。これまでの兄弟都市交流からコザの歩みを学んできたから……基地問題については、平和交流事業など別の機会に改めてするとして、とにかく豊中市は沖縄より暑いぞ、びっくり。でも、それ以上に人が熱い。これといった観光資源のないベッドタウンというが、いやいや人が資源でしょ！（笑）。

また、今後は兄弟都市の絆を深めるだけでなく、多国籍、多世代に広げて、国内外の多様な人たちとつながるための、いわば交流の起点になれないかというご意見もありました。

兄弟都市の今後について、皆さんはどのようにお考えですか。

田中 観光地としての沖縄は知っていても、コザの歴史や現状については、恥ずかしながら知らないことがたくさんありました。いや、今もまだたくさんあるでしょう。でも、少なくとも僕がそのことを認識できたのは、沖縄市の“兄弟”たちから学ぶことができたからで





沖縄市とは違う豊中市のまちなみ

す。両市の今後を考えるためには、もっと沖縄のことを知り、学ぶ必要があると思っています。

**吉田** 初めて沖縄市を訪れてまちを歩いたとき衝撃的だったのは、「ここから先は米軍基地だから撮影不可です」という境界線の存在。もちろん基地があることくらい知っていましたが、実際に目の当たりにすると考えさせられるものがありました。豊中市でもこの秋、高校生の「沖縄スタディーツアー」を実施するそうですし、とにかく現地の空気に触れてみるのが大切だと思います。

**高安** 沖縄市と豊中市、まったく違うからこそ、その交流から新しい価値観や可能性が生まれるのでしょう。兄弟都市提携50周年、そして沖縄市市制施行50周年を迎え、さらに豊中市の皆さんと連携を密にしながら歩んでいきたいと考えています。

**宮島** 沖縄と本土の、ウチナンチュとヤマトンチュの望ましい関係を考えるとき、民主主義というキーワードが僕の頭には浮かびます。民主主義を問い直すという思いが僕たちにはいつもあって、それを共に考えられる相手が本土にいないこと、その関係性を築くことがとても重要だと僕は思っています。だから兄弟都市である豊中市の存在はとても大切に、だからといって口角泡を飛ばして議論するのではなく、これからもハッ

ピーにコミュニケーションしていきたいですね。

—— 違いを知り、認め合い、互いに助け合い、より良い共生の道を探り、そして共に歩いていく—いつの時代も変わらない兄弟都市がめざす姿なのかもしれませんね。

さて、質問攻めで恐縮ですが次は、市民代表である皆さんが両市の行政に対して望むこと、叱咤激励、ご指導ご鞭撻など(笑)、ぜひお聞かせください。

**田中** 本場・沖縄市のロックイベント「ピースフルラブ・ロックフェスティバル」の出演オーディションとして位置づけていた豊中まつりの「Who's NEXT」が昨年で終了しました。今後は、みんなでまた新しい両市交流の形をつくっていく予定です。お力とかご予算とか、いろいろお貸しください。というか、ください(笑)。



最後のオーディションで選出されたBuddhadatta

**吉田** 両市の市民に対して“兄弟都市アピール”が足りていないような気がします。交流の輪を広げるために、兄弟都市をもっと宣伝してほしいです。

**高安** 貴重なご意見ありがとうございます。豊中市民の皆さんのご期待と熱い思いにお応えするよう、私も頑張ります(笑)。

**宮島** 行政に対して望むこと？僕はむちゃくちゃありますよ(笑)。まずは皆さん、必ずシアタードーナツに来て映画を見ること(笑)。みんなに「遊びに来てね」って僕はいつもいっているでしょ。自分たちが楽しめな

いで、市民を楽しませるイベントなんて絶対できないと僕は思っていて……、だから遊びが足りない！まじめ上等よ、まじめ最高よ。でも、とにかく、みんなで一緒に遊びましょう！

## ここが好きだ！ここが嫌だ！

—— そう、こんなふう楽しく何でも言い合える関係、人事異動で交流担当でなくなっても、まつりボランティアを卒業しても続く関係づくりが大切ですね。この調子で続けて伺いましょう、兄弟都市のここが好きだ！ここが嫌だ！さあ、どうぞ(笑)。

**田中** 夜遅くまで、というより朝までお店が開いていて、居酒屋さんはもちろん、民謡酒場、バーやクラブ、ライブハウスなどなど、いろんなお店が一つのまちにあるところが好きですね。嫌なところは、みんなすぐに「タクシー乗ろっ」というところかな。あれはなぜでしょう(笑)。

**吉田** 好きなところは人もまちも、全てです。でも僕はお酒が飲めないので、「終電なのでお先にドロンします」といえない沖縄の交通事情が嫌ですね(笑)。

**高安** 関西人である豊中市の皆さんの、ボケを期待するフリというか、「オチは？」という圧力が苦手です(笑)。あれ？この質問もそうなのでしょうか？でも聞いているぶんには楽しいですし、関西独特の文化で



友好のシーサー像(豊中市役所玄関前)

すし、自分に振られさえないなければ、好きなところでもあります。

**宮島** 豊中の皆さんのイメージは、良くいえばにぎやか、悪くいえばうるさい(笑)。チャレンジングでスリリングなまちかなと思います。もうすぐ豊中まつりで行くので、僕のライフワークである映画をテーマにした交流というかコラボというか、その可能性を探りたいと考えています。

## 新しい夢の始まり

—— それでは、兄弟都市提携50周年を記念した今回の座談会の締めくくりとして、一言ずつですが、皆さんに夢を語っていただきます。

**田中** 豊中まつりで育んだ兄弟都市の交流をもっと両市民の日常にまで広げたい。それが僕の夢です。

**吉田** 具体的な夢の話をしますと、豊中市内でももっとコザを感じられるイベントをしたいと考えています。たとえば、宮島さんのシアタードーナツとコラボしたコザ映画祭なんかができるといいですね。

**高安** 兄弟といえば家族です。この先、自分がオジーになっても、皆さんがオジーになっても、子どもや孫と一緒に変わらず交流できたら、そういう関係がずっと続いたら、それは素晴らしいことだなと思っています。

**宮島** 僕の大きな夢は、皆さんが1か月以内にシアタードーナツで映画を見てくれることです(笑)。そして、僕のささやかな夢は、これからも皆さんと一緒においしいお酒が飲みたい。ただそれだけです。

—— ありがとうございます。今回はリモートで皆さんとお話しましたが、またお会いしましょう。そしてそのときは兄弟都市の夢に、未来に乾杯しましょう！